

サクラマス

サクラマス（学名：Oncorhynchus masou）は、海に出る前に、一生の半分を淡水魚として川で過ごします。そして、海で 2～3 年過ごした後、産卵のために、生まれた川に戻ってきます。サクラマスと呼ばれる理由のひとつは、成熟すると桜色になるからです。また、通常、桜の開花時期である春の間に獲れるのも、サクラマスと呼ばれる理由のひとつです。サクラマスが生まれた川の産卵場所に戻ってくるのは春です。サクラマスの中には、生まれた川を決して離れないものもいます。これらはヤマメと呼ばれます（北海道ではヤマベと呼ばれます）。サクラマスの分布範囲はきわめて限られており、成熟後は北日本の沿岸部にとどまっています。